

# がみひこうき

Artist Collective Fuchu [ACF] かわら版



CHIEF EDITOR  
鈴木アサコ  
EDITOR  
芝辻ペラン詩子 / ノリコ  
DESIGNER  
杉浦一志 (JISHAQMEM)  
PUBLISHER  
Artist Collective Fuchu [ACF]

## かわら版『がみひこうき』ってなに？

毎号「人、府中、アート」をテーマにお届けする Artist Collective Fuchu [ACF] (以下 ACF) 発行のかわら版『がみひこうき』。ACF のラジオ番組が『おとのふね』なので「紙だったらがみひこうきだよね！」という ACF メンバーの言葉でタイトルが決まりました。かわら版を作っているメンバーは編集もライティングの経験もありません。創刊号の今回はプロのライターをお招きして取材から記事の作成まで参加してもらい、編集部員たちの学びの場にもなりました。府中のおもしろいこと、おもしろい人をかわら版『がみひこうき』に乗せてお届けします。



### Artist Collective Fuchu [ACF] とは

府中市とその周辺地域を中心に、芸術・美術活動のあらゆる表現を通じて「アーティストにとって住みよいまち」、ひいては市民の自由で活発な「だれもが表現できるまち」を目指すプロジェクトです。ひとりひとりが主人公となり、だれもが、その人らしい表現ができるまちへ。

<https://acf-tokyo.com>



### null [ヌル] -自由な場所とアートなこと-

null(ヌル)は、オンラインとオフラインでつながるコミュニティサロン。参加者たちがテーマにまつわるものを持ちより、何を考え、どんな興味を持っているのか、自分との接点や今まで知らなかった面をお互いに発見して交流を深めています。

次回の開催は Web サイトをチェック！

<https://acf-tokyo.com/null/>

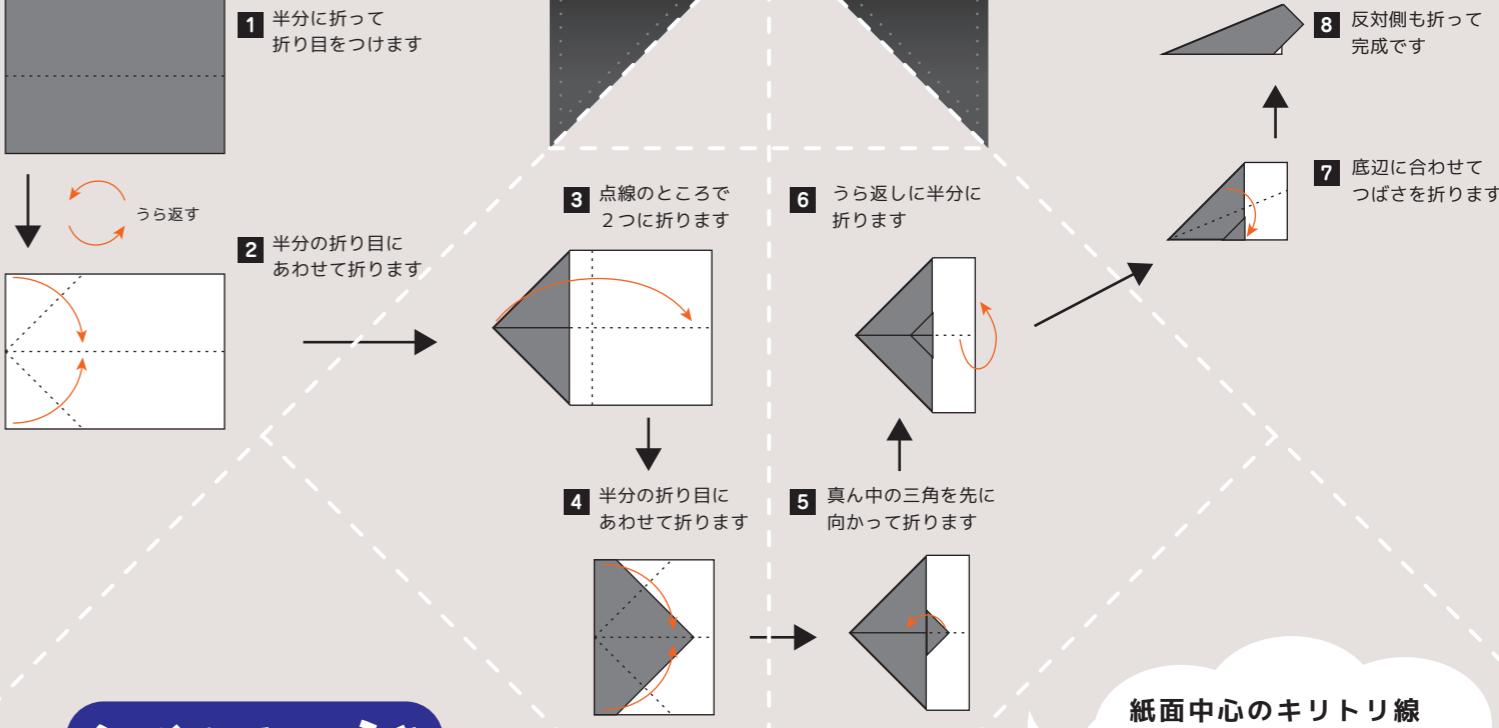


THE FUTURE IS ART  
【主催】東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、  
NPO法人アーティスト・コレクティヴ・フチュウ [ACF] (府中市市民活動センタープラット登録団体) 080-3424-0025  
※本事業は「東京アートポイント計画」として実施しています。  
※掲載記事、写真、イラストの無断複写、複製、転写を禁じます。

### ACF 新メンバー募集中！

ACFでは一緒に府中を「おもしろいまち」にしたい仲間を募集しています。一緒にプログラムの運営をやってみたい方、文章を書くことが好きな方、地元府中に友達が欲しい方、そして何よりアートやクリエイティブな活動が好きな方、ご連絡お待ちしています♪

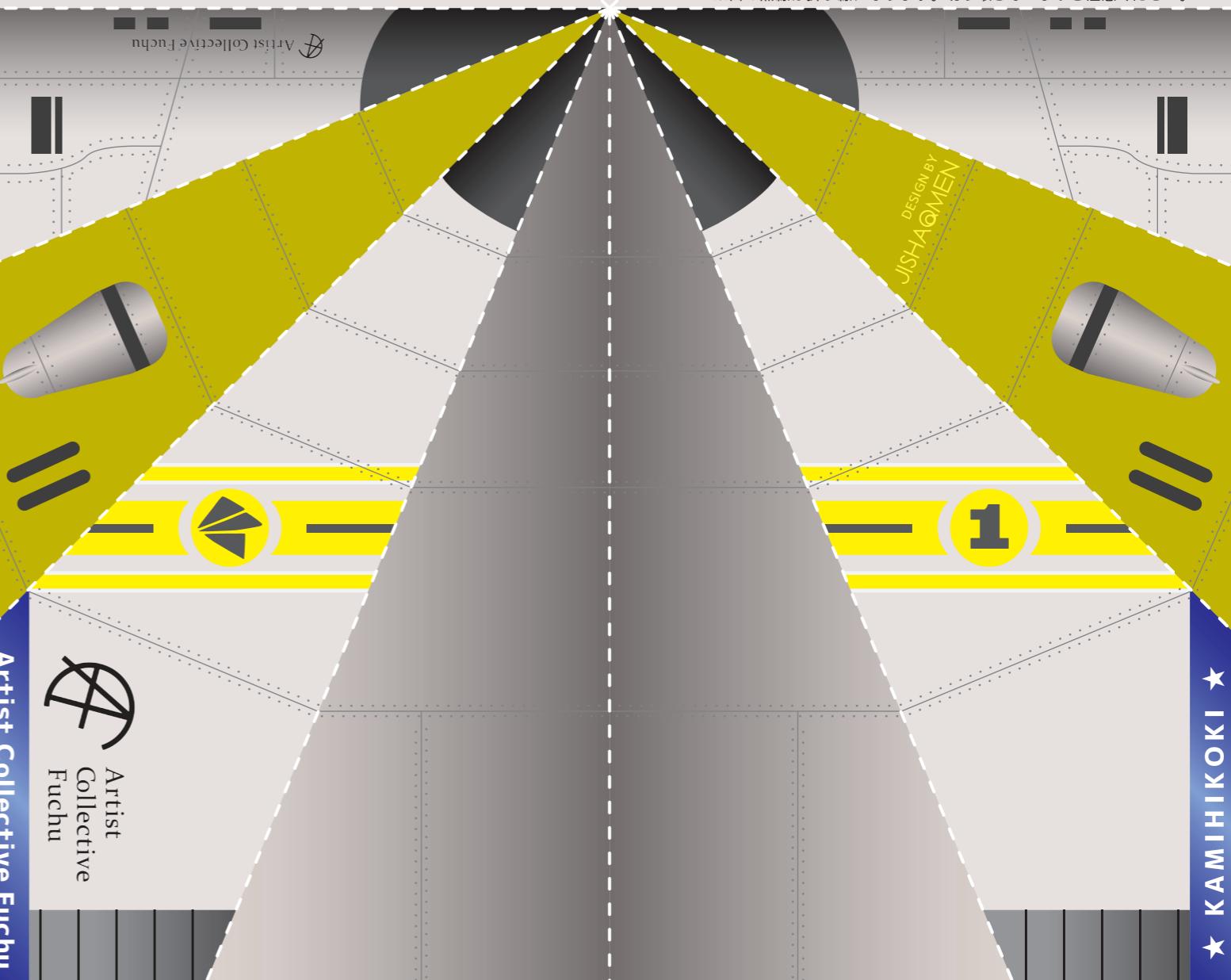
[contact@acf-tokyo.com](mailto:contact@acf-tokyo.com)



### がみひこうき 創刊号特別付録

紙面中心のキリトリ線  
で半分に切り取って、  
1~8の順に折って  
紙飛行機を完成させよう！

※白の点線は折り線になります。切り取らないようご注意ください。



Artist Collective Fuchu

KAMIHIKOKI ★

# 府中のおもしろいこと、見つけたい かわら版「かみひこうき」はじめました。



— かわら版『かみひこうき』では、府中で活躍するおもしろい人にお気に入りの場所を案内してもらいました。創刊を記念し、編集長の鈴木アサコさんにうかがいました。

ここ「東京競馬場」は私が子どもの頃からのなじみの深い場所です。昔は競馬場の駐車場や府中競馬正門前駅から続く歩道橋が、子どもたちの格好の遊び場でした。秋になれば競馬場通りのイチョウ並木が色づき、美しい光景が広がります。社会人になってから息子が生まれるまでは、三鷹や杉並に住んでいたのですが、こんな立派な並木道は近くにはありませんでした。競馬場のまわりには神社やお寺もあって、縁がとても多く、今はお散歩コースの定番。いつも息子と一緒に歩いています。地元に戻ってから「季節の移り変わりを身近に感じられる府中って、本当に良いまちだな」とあらためて感じました。

— 普段、編集長は何をして過ごしているのですか？

家事と育児、時間があれば絵を描いています。そもそも学生時代は、まったくアートに関わっていませんでした。大学では政治学を専攻し、卒業後は会社の事務員をしていましたが、日々の生活のなかに目標というか…。ストレートに言えば、夢や希望はありませんでした（笑）。「やりたいことを見つける」と考えた末に、子どもの頃に大好きだった「絵を描く」に行き着いたんです。20代中頃から働きながら美術学校に通ってデッサンや水彩画の基本を学んだり、講座で色々な表現技法を学んだり。アートに深く関わるようになったのは、子どもが生れたのを契機に地元である府中へ戻ってからです。

— Artist Collective Fuchu [ACF]（以下、ACF）との出会いについて教えてください。

きっかけは暮らしと表現の芸術祭『フェット FUCHU TOKYO 2018』でした。カッコいいデザインのフライヤーに惹かれて、開催場所のひとつであるギャラリー・カフェに行き、そこで発起人である芝辻ペラン詩子さんと知り合いになり、そのまま ACF のメンバーになりました。翌年には「ラジオ番組と一緒にやりましょうよ」と声をかけていただきて『おとのふね』という番組名を一緒に考えるとこから参加することになったんです。小学校で教わった「府中市は船の形をしている」という話からアイディアが広がり「おと（ラジオ）のふね（府中）」となりました。じつは、番組のロゴも私のイラストを使ってもらっています。数種類の切り絵を、ACF のメンバーで府中住のデザイナー杉浦一志さんが素敵に組み直してくれました。

— かわら版『かみひこうき』の編集長になった経緯はどうなのでしょう？

ラジオと同時進行で紙媒体を制作することは決まっていました。当初は番組のアーカイブを残すことが主な目的でしたが、会議を続けるなかで ACF の目的である「だれもが表現できるまち」を後押しするかわら版が作れないか、という意見が出てきたのです。2020年の春を目指して創刊前の準備号を発行しようと、がんばってみたものの、新型コロナウィルスの影響などもあり、なかなか思う通りに進まず…。チームの皆さんに助けてもらいながら、完成したのは8月になってからでした。準備号を出して最も嬉しかったのは、『かみひこうき』を置いてもらうお願いをするなかで、府中市内の様々なお店とつながりを持てたこと。「こんなおもしろいお店があったんだ！」という発見がたくさんありました。一方、準備号の制作中に最も苦労したのは文章を書くこと。紙面のデザインも考えていた以上に難しいものでした。そこで今回の創刊号ではプロにライティングとデザインをサポートしてもらっています。

— 最後に今後の目標を聞かせてください。

『かみひこうき』を制作しながら、新しい人と出会うことが目標です。たとえば、これまでラジオにお越しいただいたゲストも、障害者就労支援として喫茶店を運営しているNPOの所長さんだったり、国民的な化粧品のパッケージ・デザイナーだったり、経歴もトークもおもしろい人ばかりでした。ACFの活動を通じ、輝かしい活動をしている多くの人と次々に出会うことができています。その素晴らしい出会いを、『かみひこうき』に載せ市内に届け、手に取った人とも何かの形で関わることができたら嬉しいですね。府中には、まだまだおもしろい人がたくさんいるはず。そのつながりが深まれば、府中は今よりもっとおもしろいまちになるはず。ACFのラジオでも同じように呼びかけていますが、かわら版だからこそ伝わる相手もいるはずです。創作活動をしている人、アートに興味がある人、お店を経営している人、府中で何かおもしろいことをしたいと考えている人。少しでも ACF の活動に興味があれば、ぜひご連絡をください。一緒に府中を盛り上げていきましょう！

Photo & Text by ushio.sato (JISHAQHEN)



撮影.. 鈴木アサコ